

雑学 鳥獸植物戯詩

全24回

八木幹夫

第23回【薔薇―ナニゴトノ不思議ナケレド―】

薔薇ノ木ニ／薔薇ノ花サク。／ナニゴトノ不思議ナケレド。(詩集「白金之独楽」薔薇二曲の其一より)

玄関の小さな庭。正面右にニオイバンマツリ、秋明菊左に門かぶりの松と鉄線と薔薇。初夏にはニオイバンマツリが青紫を点じて香る。春と秋の鉄線はその紫が鮮やかに裂ける。松には松ぼっくり。白薔薇は鉢植えがそのまま根付き、淡い桃色を含み二度咲く。秋明菊の茎がシュツと走って白い五弁花を揺らす。季節ごとの花を見るたびに「不思議ナケレド」と呟く。植物の営みは変化がはげしい。お互い隣合わせているのに薔薇は薔薇の、鉄線は鉄線の、松は松の花を毎年どうして咲かせるのか。確かに不思議はないのだけれど…。

秋明菊が風に揺れ「この主人は時々変な世迷言をいう。」とあざ笑う。詩人は愚かな、非常識を考える生き物なのかもしれない。九州福岡県柳川生れの北原白秋、トンカ・ジョンは不倫で投獄されたが、童謡、短歌、詩などを自在に表現した幻想ゆたかな詩人であった。

君かへす朝の舗石しきいさくさくと雪よ林檎の香のごとく  
ふれ (歌集「桐の花」)